

# 労仲争議応援

## 和可山染工争議

昭和六年三月十日和可山市外此島、和可山染工株式会社此島分工場の一職工が労働組合へ加盟し、その理由として不当にモリを解雇した。日頃親交のあつた女工二十数名は袂別の記念撮影を撮り、其の集會したのを、争議・陰謀を疑はれて之を解雇を申張した。被解雇者は結集して、全国労働組合同盟の指導下に、解雇及対の一大争議を起した。争議團は勇敢に争争を續け、争争を敢行する事二十三回、其の他、議院会、ビラ撒き等、戦術初を奏し、工場内職工と連絡をとり、之にオポタージ（怠業）を行はしめる等、戦術と並に、遂に会社側は屈服し、在の条件にて解決した。此が五五聯合会より以前、大谷田村の名常任を、之が応援と指導に當りしめられた。

條 二十四名の解雇者に対し、争議費用千当として一千七百円を支給する事。解雇と同時に従業員を全部解雇し、工場へ斡旋轉任せしめる事。二十四名の解雇を承認する事。

## 住友争議

大阪商志は住友王国に対し、賃金値下げ解雇反対、全国労働組合同盟大阪聯合会、指導下に起つた。これに対し、吾が縣聯合会はオニ固執行を賛成に於て積極的に対応する事を決議し、各地区へ指令し、各支部から米五俵、十七俵、肴物二樽を五月十七日米田争議部長附希ひ、之を寄贈する美に争議團を激励の辞を送つた。然るに十八日、表迎前井田村各常任は住友争議團本部を訪問、激励の挨拶と和可山農民の意向と階級的声機を述べた。この争議は遂に大勝利にて解決した。

## 和可山市 駅仲士争議

和可山市駅仲士連は和可山運輸労働組合の指導下に仲向、搾取及対賃金値下げ及対を叫んで、砂山西之町に争議團本部を置き、争議に入る。經過、争議團は一月二十四日争議團大会を開き、大阪本社への鐵死行進を求むる事を決議し、三十七名の争議團員と和可山無産團體協議会、全農田村、合同高橋、小林、化学の小林君等に引率され、和可山市駅前へ差しかかり、争争を阻止せんとした。和可山署官大に、乱斗となり、田村、山本、小林等は検束拘留され、即日解決した。